

幼児教育としての英語をめぐる環境と  
その指導のあり方について

— 附属幼稚園の英語カリキュラムをとおして —

Environment of English Learning for Children in Preschool Education:  
Through English Curriculum for Affiliated Kindergarten

中 山 千 章  
Chiaki NAKAYAMA

廣 瀬 久 子  
Hisako HIROSE

## 1 はじめに

近年、国際化・情報化の流れを受けて多くの保育園・幼稚園においても英語教育を実施しているところが増えてきている。ここ茨城県の県南に位置する本学近辺の私立保育園や幼稚園では、英語を子どもたちに教えていない園はほとんどないといってもいいほどである。それだけ、国際化が進んできているともいえるが、国際化の現況を考えるにあたって、どのように変化してきているか、まず外国人登録者数から判断してみることにする。

日本における外国人登録者数は、20年前の昭和63年には941,005人であったが平成20年には2,217,426人になり、約2.4倍の増加となった。外国人の占める割合は日本の人口の1.74%になっている。茨城県については、平成20年度の統計によると、外国人登録者数が全国で10番目に多い県となっている。なお、県内で最も多くの外国人が住んでいるのはつくば市である。平成20年10月現在の統計によると、登録者数は7,328人であり、出身国数は131カ国におよぶ。つくば市の外国人の割合は人口の3.66%を占めており、まさに、国際性豊かな研究学園都市という呼び名があてはまる。

また、つくば市では、当然のことながら幼稚園や小学校・中学校に通っている外国人や帰国子女も多く、市の教育委員会ではその対策として、AET（英語指導助手）を雇用し、各幼稚園や小・中学校を巡回指導という形をとることにより、英語教育の充実や国際理解教育の推進を図っている。さらに、日本語能力が不十分な帰国子女や外国人への教育対策としては、市民による学校ボランティア活動が中心となり、日本語教育が進められている。

文部科学省においても、近年の国際化の流れをうけ、小学校5・6年生を対象に英語を必修化とし、平成23年度からの開始を正式に決定した。しかし、平成21年度からを移行期間、つまり前倒ししても良い期間としたので、実際は、今年度から多くの小学校において英語指導が始められている。

このような社会的な環境変化が、幼稚園に通う子どもがいる保護者を刺激し、県内の各幼稚園においても英語指導を求める声が増えつつ大きくなってきている。特に、私立幼稚園では、ほとんどの園で数年前から英語教育を実施しているが、今回の小学校の英語必修化に伴い、今まで以上に幼児の英語への期待感や関心が高まってきている。

本学の附属幼稚園においても、そういった期待感のあらわれからか、昨年までは英語の指導に関して、保護者から何のコメントも要望もでたことはなかったが、今年度は英語のカリキュラムを見せて欲しいといった意見や、参観授業を実施して欲しいなどの要望がでていたことであった。

英語の参観授業については今日まで実施したことはないが、カリキュラムは今年度初めて作成した。今までカリキュラムを準備しなかったのは、一回の授業に教える時間は20～25分程度と少なく、指導する内容が限られていたことや、行事の日程などにより英語の時間がなくなることも

ままあったので、あえて作る必要はないと感じていたからである。しかしながら、今年度は保護者から英語の授業内容や指導の方法（カリキュラム）を知りたいとか、実際の授業現場を見てみたいとの要望があったこともあり、園での英語指導を見直すためのよい機会だと捉え、カリキュラムを作成することとなった。

実際にカリキュラムを作るにあたって、幼稚園で教える英語の意義とは何か、短い時間のなかで何をどう教えればいいのかとか、幼児の発達段階も考えてとか、英語を楽しいと感じさせるにはどうするのがいいのかとか、いろいろと考えさせられることが多くあった。

## 2 幼稚園教育と英語について

幼児期における教育は、学校教育法第22条に「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」と記されているように、環境を通して行うものであり、さらに、幼稚園教育要領の総則には、幼稚園教育の基本として「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮し、遊びを通しての指導を中心として第2章（幼稚園修了までに期待されるねらい及び「健康」「人間関係」「環境」「ことば」「表現」の内容）に示すねらいが総合的に達成されるようにすること」と記してある。

これからも分かるように、幼児教育とは幼児が健やかに成長できるように、遊べる環境を準備し整えることにある。換言すれば、幼稚園教諭は幼稚園という環境の中で幼児と生活をともにしながら、幼児との信頼関係を築き、一人ひとりを理解し、幼児のすることを見守りながら発達に必要な経験が得られるように、いろいろな遊びの場を計画的に構成し、遊びを援助しながら生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を養うということである。

幼稚園の英語指導というと、幼児教育のねらいから逸脱しており、知識のつめこみではないかと考える人もいるかもしれない。が、実際の指導はあくまで英語という遊びを通して行なうものであり、幼児は直接的・具体的な遊び体験を通して英語を、外国語教育などとはまったく思わずに、ただ楽しんでいるだけである。教師は、そのため、子供が思い切り楽しく遊べる環境は何かを考え、その準備をし、指導することになる。

多くの私立幼稚園が行なっている英語の指導は、歌を歌ったり、踊ったり、ゲームをしたり、絵本を読んだりすることが主であり、子どもたちは英語を使つての遊びをしているといえよう。また、その指導は幼稚園教育要領のねらいと内容（健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域）にも十分に合致しているといえる。身体を英語の歌のリズムに合わせて動かしたり、子どもたちがお互いに協力し合つてゲーム等をしたり、いろいろと考えながら友達と英語の会話を成立させようとしていることなどは5領域のねらいや内容に複合的に関連しているといえる。社会的な環境についても、実際に、つくば市内を歩けば、外国人に会わないときは滅多にないし、レストラ

ンやスーパーに入ると英語ばかりでなくいろいろな外国語を常に耳にする。幼稚園の子どもたちの着衣にも横文字で様々なことが書かれている。シャツなどに書かれている英語に、子どもたちは興味津々であり、意味を知りたくて、次々に「何て書いてあるの」とよく訊いてくる。また、普段の会話においても、Thank you, Good-bye, Good morning, How much, I love you. 等は日常的に子供ばかりでなく誰でも使うようになってきているのが現状である。

環境的には、日本は今や十分に国際化してきているといえるだろうし、文部科学省もこのような時代・社会的背景を鑑み、日本人は21世紀を生きぬくために、英語によるコミュニケーション能力を身につけなければならないという認識に至った。そして、平成14年には「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」というアクションプランを発表するに至った。小学校での英語の必修化もこの計画に沿った流れの中で決まってきたものであるといえる。

多くの私立幼稚園が、一足先に英語を幼稚園教育に取り込んだのは、このような社会の環境変化の兆しを捉えたからであるし、そのことは、また保護者の期待感や要望に応える手段の一つであることを強く認識しているからであろう。実際、保護者が幼稚園での英語教育を望む声には強いものがある。昨年、附属幼稚園で実施した保護者へのアンケート調査においても、英語教育を継続してもらいたいという声が圧倒的に多く、改めて保護者の英語熱を確認することとなった。

アンケートに記載された意見から幼稚園での英語指導の必要性について拾ってみると、「将来は英語が必要になるから」とか、「幼児期から外国語に触れる機会があることはいい」「英語とかかわりあう場があることはいい」等のコメントが数多く見られた。英語指導の必要性については、どこに行っても外国人に出会うような現在では、国際化が遠い将来の話ではなく、身近な問題であり、急いで対処すべき事柄であると、多くの保護者が認識しているからであろう。

また、平成23年度からは全ての小学校の5・6生において年間35時間、週1コマ、外国語（英語）を必修科目として開始することが決定し、今年度は、移行措置期間ということではあるが、茨城県では先行実施することが決定している。

小学校で英語教育を始める理由については文部科学省が次のように述べている。

- ①社会のグローバル化が進み、国際協力が求められているとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから、外国語教育の充実が重要な課題となっていること。
- ②小学校で外国語に触れたり、体験したりすることは中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地を作ることになる。
- ③小学校の英語活動は多くの学校で取り組んでいる（平成19年度の文部科学省調査では97%）が、外国語活動を義務教育として行なう場合は教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続の観点から、国として共通に指導する内容を示すことが必要である。

また指導の内容としては、

- ①英語を用いて挨拶や自己紹介など簡単なコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。

②英語の音声やリズムなどに慣れ親しむこと。

③日本と外国の生活、習慣、行事などの違いを知り多様なものの見方や考え方があることに気付くことなどである。

文部科学省が述べている小学校で英語を必修化した理由や内容は、幼稚園児の保護者が考えていることとほぼ同じであるといってもいい。

保護者が幼稚園での英語指導を要望する最大の理由は、社会の国際化に伴い英語の必要性が高まってきていることである。それに加え、英語が社会的に必要で勉強しなければならないものなら、経験則から、年齢的に早ければ早いほど効果性が高いといわれているので、なるべく早い時期から英語に触れさせたいとの思いがある。また、幼稚園の英語指導に期待することとして、前回のアンケート調査によると「英語に抵抗感を持たないようになること」や、「簡単な挨拶や会話等ができるようになる」、「日本語以外の言葉があることを知って欲しい」などが数多く見られた。

英語の早期教育に期待する保護者は依然として多いが、どうしてなのだろうか。考えられることは、テレビ、新聞、雑誌などのコマーシャルによるところもあるだろうが、保護者自身が直接見聞きした経験やテレビなどでバイリンガルタレントの活躍を目にしたことが大きいと思われる。例えば、自分の目の前で帰国子女やインターナショナルスクールに通っていた子どもが実際に英語を話しているところを見れば、「なるほど」と納得するであろうし、テレビなどで宇多田ヒカルや関根麻里のようなタレントがネイティブ同様に流暢な英語で話しているのをみれば、自分の子どもバイリンガルにさせたいと思う親がいても不思議ではない。このような事実は、英語という環境が十分に与えられれば、多くの子どもは英語の習得が容易に可能であることを示しているからである。

そういえば、お隣の韓国でも英語教育に熱心のあまり、舌の手術までして我が子の発音をネイティブのようにならそうとするのは例外であろうが、幼稚園や小学生のうちからバイリンガルを目指して子どもを海外留学させる親が多いそうである。子どもが小さいので母親が一緒についていき、父親は一人で国に残って働いて、家族に送金するとのことである。このような父親を韓国では、家族を大切に、別れても再婚しないで子どもをきちんと育てる雁をもじって、キログアッパ（雁のお父さん）というそうだ。英語教育の加熱といっているのかもしれないが、ちょっと異様な感じがしないでもない。しかしながら、韓国では国をあげて英語教育に取り組んでおり、各地方自治体は英語の実践的学習のため、外国に行かなくともすむようにとイングリッシュ・ビレッジという英語のテーマパークまで作るほどである。早期の英語教育熱がただならぬものであることが理解できる。

ここ茨城県でも特に私立幼稚園などでは、それぞれの園の特徴をだそうとしたり、保護者の期待や要望に応えようとしたりして、数年前から英語教育を始めているところが大多数となっている。保護者が子どもに少しでも英語に触れさせたい、親しみを持ってもらいたいと考えている理

由の一つには社会の国際化があるが、他方には保護者自身の経験も含めて、中学校から始める英語では、どんなに努力しても英語を自由に使いこなすようになるには限度があると認識しているからであろう。

早期英語教育への保護者の期待はひとえに幼児の持つ柔軟な環境への適応力や言葉への適応力にあるといえる。また、民間の英語教室等が語学の臨界期仮説を強調したりすることもあり、幼児の英語教育はますます過熱気味の状態になっている。では早期英語教育の利点とは何であろうか。一般的には次のようなことがいわれている。

年齢的に若い子どもほど、

- ①英語に対する抵抗がない。
- ②英語を話すことに積極的である。
- ③日本語とは異なる英語独自の音声やリズムを容易に覚えられる。
- ④遊びの中で楽しみながら習得することができる。さらに、
- ⑤幼稚園の子どもは、たとえ言葉が上手く話せなくても、外国人の先生と自然に緊張することなしにコミュニケーションを図ろうとする。などである。

### 3 英語不得手と幼児への英語指導について

日本人が英語が苦手なのは世界的にもよく知られた事実である。どのくらい苦手かという点、アメリカやカナダへの留学用の試験で一般的に使われている TOEFL というのがあるが、この試験で日本は例年アジアの国の中では最下位に近い状態であるし、2005-2006年の TOEFL データにおいても、アジアの28国中で最下位の成績であった。

なぜ英語が苦手かという点、日本語との言語間の距離が離れていることや、音声や周波数の違い、英語を学習する動機づけの弱さなどがあるといわれている。言語間の距離とは言葉の構造がどれほどほかの言語に似ているかということである。似ている度合いが大きければ距離が近いということ、度合いが小さければ距離が遠いということである。例えば、日本語と韓国語は文法や言葉の用法において似ているので、距離は近いということになり、日本人には韓国語は易しい言葉となるが、英語のように構造がまったく異なる言葉だと距離が離れており、覚えるのが難しいということになる。

音声についても、日本語は母音が中心の言語で、発音も高低であるが、英語は子音が中心で、発音は強弱である。他にも、音声の周波数の違いなどがある。英語の音声は日本語よりも周波数が高いので、日本人には英語の音は聞きにくくなってしまふ。音が聞こえなければ、発音することもできないし、発音できない音は、また、聞くことができないともいわれているので、どうしても英語によるコミュニケーションが難しくなる。

動機付けの弱さについては、日本では英語が使えなくても、日常生活において困ることがない

し、あまり不利益を被ることもない。これがフィリピンやインドだと、英語は第二言語として公用語となっており、堪能でなければ社会的・経済的地位にも影響を与えるので、英語の習得は必須である。最近、韓国でも英語教育に熱心のせいか、就職には英語力が絶対欠かせないとのことである。

日本人にとって、英語は習得するのが困難な言葉ではあるが、今日の国際化した社会・経済状況下では、英語は不得手とはいってはいられなく、何としても英語を使える日本人を増やさなければならない。では、どうしたら苦手な英語を克服できるかということであるが、最も影響を与えていると言われているのが学習の開始年齢であり、このことは言語研究者の間では定説となっている。つまり、いつ学習を始めるかによって外国語の成功する確率が大きく変わるということであり、一般的に知られているのは臨界期仮説である。臨界期というのはある年齢（遅くとも思春期のはじまりである12・13歳）までに学習を始めないと、ネイティブのような言語能力を身に付けるのは不可能になるという説である。

この臨界期仮説は小さな子どもが、英語が日常的に話されている環境におかれると、あっという間に英語の音を習得し、簡単な会話が話せるようになるという事実からしても明らかであろうし、実際に多くの人が見聞きしていることでもある。幼児の英語教育のブームや小学校の英語教育の導入の背景にあったのはこの仮説だともいわれている。ただ、この仮説については賛否両論があり、臨界期の年齢に関してもいろいろと議論がかわされており、いまだにはっきりした定説はない。

他に、英語習得に影響を与えているものとして、外国語学習の適性がある。幼児はどこの国の子どもでも母国語を必ず覚えるし、環境次第ではバイリンガルにもなれるので、適性があるといえよう。外国語学習の適性とは、音声認識能力、言語分析能力、そして記憶力の3つを指す。幼児は音声認識能力と記憶力があり、言語分析能力はないといわれている。それに関連した研究として、アメリカのハンガリー人コミュニティにおける言葉習得の研究が報告されている。それによると、アメリカに移住して来た人のうち16歳以上の人たちは文法分析能力の高い人たちだけがネイティブに近いレベルまでの英語力に達することができたが、16歳以前に来た子供は分析能力とは関係なく、全員がネイティブレベルに達した、という。

年齢的に早ければ早いほど、英語学習に好結果を与えるのは、英語が話されている環境のもとで学習する子にかぎり間違いのないことのようなものである。国内でも、インターナショナルスクールに在籍している子どもは、ネイティブなみの英語を話すことはよく知られている事実だし、また、ネイティブなみとはいえないまでもイマージョン教育を実施している静岡の加藤学園や群馬国際アカデミーなどに在籍している子どもたちの英語力も相当高いレベルにあることが知られている。

#### 4 カリキュラムの作成について

カリキュラムとはある一定の期間で、特定の教科の教育目標を達成するため、何をどのように教育していくかの指導計画及び方法を総合化したものである。カリキュラムは授業計画であり、教育目標の予測の下に作成されるものであるから、実際に教育をして予測どおりにことが運ばないときは、当然その見直しや変更の必要が生じてくる。

カリキュラムを作成する必要性については次のようなことが挙げられる。

- ①子どもの実態の把握、つまりどれだけ子どもが覚えられるか、何をすれば楽しめるかなどの理解が可能になり、効率的に教育を進めることが出来る。
- ②教育のねらいを定めることによって、どのように指導を進めるかという見通しがたてられる。
- ③子どもの覚えたことや楽しんだことについての気付きが出来るし、上手に子どもを褒めてあげることができる。

以前からカリキュラムの必要性の認識はしていたものの、昨年までは附属幼稚園の英語指導に関してカリキュラムの準備はしてこなかった。英語指導のねらいは子どもたちが楽しく英語で遊べることであり、英語を使って遊ぼうのような環境を用意する中で、主に絵カードや歌、絵本などの教材を中心に、子どもたちが楽しめることだけを考えて進めてきた。指導は週に1回、月曜日だけで、それも1クラス20～25分程度なので、あえてカリキュラムをつくってまで指導をする必要はないと勝手に理解していた。

しかしながら、昨年幼稚園英語に関するアンケート調査を実施した結果、保護者からの要望として英語の参観授業をして欲しいとか、カリキュラムを見てみたいといった意見が数多くあることが判明した。これらの幼児英語に対する熱心な保護者の意見に応えようと、英語指導のねらいや指導内容などを記したカリキュラムを準備することとした。

カリキュラムを作成するにあたっては、子どもに英語を楽しんでもらえるようにすることを一番のねらいとした。それには、子供たちが喜ぶであろう歌を歌うこと、理解を容易にするために絵カードを使うこと、ゲームなどにおいて身体を動かす方法（全身反応教授法 TPR=Total Physical Response）を第一に考えて、作ることにした。他に、考慮したことは、季節の催し物や幼稚園行事と関連させることである。幼稚園の行事には幼児の日常生活に変化や潤いを与え、季節の移り変わりなどの節目を体験させる目的があるので、英語の指導もできる限り園の行事にあわせるようにした。

今回のカリキュラムの作成にあたっては、現在筆者が指導している年長組（5・6歳児）を対象とした。幼児の年齢差における発達の違いは、英語の指導をするとすぐに分かることである。例えば、3歳児は英語による言葉が全く理解できなくとも、じっと筆者のすることを見つめ、何にでも興味・関心があるかのようにし、どんなことでも真似をしようとする。歌っているときに身体を動かしながら歌っていると、子どもたちは歌えなくても、筆者の身振り手振りを真似ながら、



どの子ども同じように歌おうとする。しかし、5・6歳児になると、いろいろなことが理解でき、コミュニケーション能力も発達しているためか、指導時間においても自己主張や好き嫌いをはっきりと表すようになる。英語がよく理解できなくて、楽しくないと感じたときなどは、はっきり「つまらない」とか「面白くない」といつてみたり、「全部日本語で説明してよ」といつたりしてくる。

カリキュラムの作成する上では、子どもが、なるべくこの「つまらない」とか、「全部日本語で説明して」という言葉をなるべく発しないように、身振り・手振りをしながら歌を歌うことや、絵本などもストーリーが長いものは使わず、絵だけである程度理解が可能なものを選んだり、絵カードを多用したりして、とにかく子どもたちが英語嫌いにならないようすることだけを考慮した。

## 5 カリキュラムの内容

カリキュラムを作成するにあたって、そのねらいは一般的ではあるが、次の3つとした。

- ①遊びを通して英語を楽しむ。
- ②日本語以外の言葉があるという意識を身につけるようにする。
- ③英語で表現する楽しさ・面白さを味わう。

カリキュラムは1年を通じて必ず毎月指導する内容は、歌やチャンツを中心として、歌に関連した単語や身の回りにあるものの言葉やちょっとした会話、絵本の読み聞かせなどである。他に、カリキュラムには載せなかったが、毎回 Good morning. の朝の挨拶と How are you? と訊いて、I'm fine. Thank you. And you? と答えることから、英語指導を始め、その後に、クラスの子も達が one, two, three... と点呼することになっている。その日の指導の終わりには、子どもが Thank you very much. と挨拶し、それに対し You're welcome. See you next week. Good bye というのが通例になっている。

月の初めには、その月に生まれた子ども達に「Happy Birthday to You」の歌を歌い、それぞれの子どもに、How old are you? と訊き、子どもには、I'm six. もしくは I'll be six in this month. と答えてもらうようにする。年の後半(夏休み明け)になると、When is your birthday? なども訊くようにしている。答えかたは、例えば、It's November 25th 等となる。もっともこの質問に答えられるようになるには、序数が数えられるようになっていくことが基本である。が、実際にはこれを覚えることは難しく、できない子どもが大多数であるので、基数で代用してもかまわないことにしている。

月ごとのカリキュラムは、子どもが興味・関心を持ちやすく、易しい内容のものから進めていくことと、幼稚園の月ごとの行事を絡めて作成することにした。幼稚園で実際にしていることと組み合わせるほうが、子どもたちの興味・関心を抱かせやすいし、日常の活動に近い事柄を学んだほうが記憶に残りやすいとの判断からである。

次にカリキュラムの主な内容とそのねらいについて月別に説明することにする。

まず4月からであるが、4月は幼稚園の入学式や子ども達の進級等の都合において忙しいため、実際の指導は5月から始めることになる。

5月の内容は、実際に英語を始める最初の月となるので、Head Shoulders and Knees and Toesの歌を歌い、おおいに楽しむこととした。この歌の遊び方は今まで指導していたなかで、最も子どもたちが楽しめるもののひとつである。歌を歌いながら両手で身体の各部分に触れながら、だんだんとテンポを速めていくので子どもが夢中になり、それと一緒に身体の部位の語を覚えていくことになる。5月には、子どもの日(Children's Day)もあり、幼稚園でも鯉のぼり作りをしたり、柏餅の話などもしているの、子どもの日に関連する語を英語で説明する。

6月には、数を覚える歌として Ten Little Indians や動物の鳴き声などを楽しむために Old MacDonald Had a Farm の歌を歌う。Ten Little Indians の歌は簡単なので、誰でも歌えるのが利点である。Indians の代わりに動物やいろいろな職業名などを入れて、歌うと変化があって面白い。またちょっとした振り付けを考え、ゲーム風にしても楽しめる歌である。Old MacDonald Had a Farm は歌の初めの頃は、どの子どもも楽しそうに歌うのだが、途中からは E-I-E-I-O の部分だけ歌っているような気がしないでもない。歌詞が難しいのとテンポが速い曲なので歌いづらいのであろうが、動物の鳴き声だけは楽しんでいるようである。この歌にはヒヨコ、アヒル、七面鳥、ブタ、牛、犬、馬の7種類が出てくるが、もちろん他の動物も増やしてもかまわないだろう。また、絵カードを使いながら、いろいろな動物の語を覚えてもらうようにする。他に、果物や野菜などの絵カードを使いながら、それらの語を覚えるとともに、What is this? It's an apple. などのパターン・プラクティスを行なう。

7月に入ると、七夕があるので、歌は誰でも知っている Twinkle, Twinkle, Little Star を指導する。これもやはり歌に合わせて、踊るようにする。子どもは不思議なもので、ただ歌を歌っているだけだと、あまり楽しそうな様子を見せないが、身体的運動を入れると一気に活気付く傾向がある。子どもたちの動きを観察していると、どんな身振り・手振りでもすぐに真似をするし、物真似は子どもの本能のように感じるのは筆者だけではあるまい。それとやはり同じく歌では Old MacDonald Had a Farm を先月に引き続いて取り入れることにする。動物の数が多くて、ひと月だけでは覚えきれないと、軽快なリズムの曲なので、子どもが大好きという理由もある。絵カードのほうは、前回に引き続き動物や果物も使うが、夏休みも近いことなので男の子の好きなカブトムシやクワガタなどの虫も扱えば、夢中になることは間違いないだろう。さらに、少し多すぎる感もしないではないが、今までの復習もかねて数字カードも取り上げることにした。

8月は、幼稚園も夏休みに入るの、英語指導は行なわれない。9月は夏休み明けで、久しぶりの英語の時間なので、子ども達はカブトムシの話や海に行った話等を熱心してくるので、それらの事柄を英語で何というのなど、毎年のように質問をしてくる。子どもをリラックスさせる

意味もかねて、最初の5～6分間だけ対応することになっている。

9月の予定は、曜日についての指導である。月は誕生日等で何度も聞いているためか、比較的多くの子どもが覚えているのに対し、曜日は覚えにくいようである。曜日についても、今回のカリキュラムでは曜日の歌を使うことにした。簡単な曲なので、比較的多くの子どもが、1・2回歌を聞いただけで、口ずさむようになる。その後、子どもと曜日についての会話をする。例えば、What day do you like? I like Sunday? などである。この会話パターンを少し練習し、慣れてくると、Why do you like Sunday? Because I can play with my daddy. 等のように、Because... の文を用いて、理由を表す表現を会話の中に持ち込むようにする。少し難しいように感じられるかもしれないが、「どうして日曜日が好きなの」などと日本語で訊いたあとに、Because... の文を用いて会話するようにするので、子ども達は結構積極的に反応してくる。

他に、How are you feeling now? I'm great. などの気分を表す表現も導入する。気分を表す語としては、fine, happy, good, hungry, sleepy, tired, angry, busy, hot, cold などがあるが、これらの語をI'm...と行った後に入れるようにする。方法としては、最初に今 hungry や sleepy の子は“Raise your hand.”とあって、いくつかのグループに分けておき、How are you feeling now? と質問をしていくようにする。子どもたちは、仲間の子の話すのを真似ることができるせいか、楽しそうに答えている。

10月には、月についての指導をする。月については前にも述べたが、比較的多くの子どもたちが覚えているし、忘れていてもすぐに思い出せる子も多い。指導の方法としては、“A year in Japan”というチャンツを用い、月の語句を覚えるとともに英語のリズムや抑揚を楽しんでもらうようにする。また、毎月行なっていることでもあるが、それぞれの子どもに、“When is your birthday?”と訊き、“It's October 12th”などと誕生日を答えてもらうようにしている。

10月の行事としては、また、ハローウィンがあるので、Happy Halloween の歌を紹介する。この歌も身体を動かしながら、面白そうに歌うようにする。歌詞のghost, witch, bad, trick or treat 等の意味を説明すると、子ども達はキャッキョットと騒ぎながら楽しんでいるようである。

11月には、季節の語、つまり春夏秋冬についての言葉を導入し、先月と先々月に指導した月と曜日についての復習を兼ねながら、時間に関する語句を総合的に覚えることを目標とした。この月は、また、秋の遠足もあるので、遠足に関連する語句の導入もすることになっている。

11月の歌は、“This is the way”の歌である。日常生活に必要な語句が多くでてくるし、歯磨きや洗顔、髪をとかす身振り手振りも簡単にできるし、子どもたちも楽しめるからである。それから、クリスマスの歌である“We wish you merry Christmas”も11月ではあるが、クリスマスは大きな行事だし歌をしっかりと覚えてもらいたくて、導入することにした。今月は2つの歌を紹介することになるが、どちらも子どもたちがよく知っている歌なので、楽しんで歌ってくれるだろう。

12月は、本格的な冬の到来であるとともにクリスマスのシーズンである。クリスマスに関する語句をたくさん紹介しながら、外国のクリスマスシーズンの過ごし方などを説明する。サンタさんやトナカイ、どうして煙突なのかを説明すると、興味深げにいろいろと質問しながら聴いてくれる。また、今月の歌としては“Jingle Bell”を歌うことにした。軽快なリズムで、子ども達もよく知っている歌なので、例年楽しく歌ってくれるからである。

1月はお正月である。子供たちにお年玉はいくらだったかを訊くとともに、千円や1万円などの大きな数を導入する。例えば、“I got 5,000 yen from my mom, and 10,000 yen from my grandpa”などである。ほかにお正月には何をしたとか、初詣はどこのお社にお参りしたかなどを訪ねたりする。他に、今月は自己紹介をするとともに、好きな事や物を言い、その理由を説明する練習をする。例として、“I’m Yoshiko Saitou. I like Sunday. Because I can play soccer with Dad.”自分の名前と好きなことや物は簡単に言えそうだが、その後のBecauseを使った文が難しい。昨年も数名の子供たちしか応えられなかった覚えがある。

お正月の歌は、元気良く“Five little monkeys”にした。ピョンピョン跳ねながら歌うので、子供たちはいつも楽しく笑いながら歌っている歌でもある。ただ、この歌は5人でしかパフォーマンスができないので、もっとたくさんの子供が関わることができれば思っているのだが、子供たちの楽しむ様子をみながら、どうするのがよいか考えていくことにする。

2月は、1月と同様に自己紹介と自分の好きな事物の紹介をすることにした。好きな事物は多種多様だし、クラス全員の子供にも訊くとすると1月だけでは時間的にも足りなくなるので、今月もこのパターン練習を継続することにした。

歌のほうはHokey Pokeyにした。とても軽快な音楽でどんな子どもでも振り付けを覚え、踊りながら歌えれば最高の歌である。ちょっと難しいとは思ったが、幼稚園も今月を含めて、残り2ヶ月であるし子どもたちと大いに楽しみたいと思ってこの曲を選んだ。RightやLeftが出てきて、子ども達も右と左で混乱するが、指導するに当たってはleft(左)は左手の親指と残りの4本の指を付けた状態でL字を作ってみせ、L字ができたほうが左だと説明する。また、ShakeやTurn aroundをしながら思いきり身体を動かし、楽しみたい。

3月は最後の月である。3月はまたひな祭りの月でもあるので、ひな祭りについての語句をいくつか説明をする。歌については、卒業の月でもあるし、誰にも馴染みがあり、また子どもたち全員で合唱できる歌であるWhat a Wonderful Worldを歌うことにした。この歌詞のように「とてもすばらしい世界」が訪れることを願って。この歌も子どもたちには少し難しいと感じたが、最後だし、保護者が聞いてもわかる歌がいいと考えて選んだことも確かである。

## 6 おわりに

附属幼稚園での英語指導は平成13年から継続して行っている。英語を幼稚園で始めた理由は、

幼稚園に通う保護者の要望に応えることがまず第一であるが、他にも、英語指導における幼児の実態を調査研究するためでもある。実態というのは幼児が英語を楽しめるようにするには、何のような方法で指導するのがいいのかといったことや、指導の時間や内容を含めて、どのような方法をとれば教育効果が高まるのかといったことである。例えば、今までに分かってきたことは、全身反応教授法（TPR＝トータルフィジカルレスポンス）をすれば幼児たちが最も夢中になって楽しむということである。フラッシュカードをしても歌を歌っても、なんとなく元気がもうひとつ足りないときなどは、TPR的方法をとればいつでも子どもたちはたちまち元気になりはしゃぎ回る。英語を覚えることについては、同じことの繰り返しを記憶として定着することになるので、数や曜日、月、身体の部位の名称、挨拶パターンなどは毎回の指導で行っている。しかしながら、幼稚園で英語ができる子どもというのは、当然かもしれないが、カリキュラム以外に英語をどこかで学んでいるか、保護者が英語に大きな関心を抱いている子どもが多い。インプット量と関心度の違いであろうか。

保護者の英語関心度については、去年は英語が小学校で必修化が決定したというニュースがあり、社会的な話題にもなっていたので、附属幼稚園の保護者に英語指導についてどのように考えているか調べる目的でアンケート調査を実施した。結果としては大多数の保護者（約80%）が英語指導の必要性を認めていることが判明した。なかには、英語指導がカリキュラムに入っていたので附属幼稚園に子どもを入園させることにした。とのコメントもあった。また子どもが英語を始めたことによって英語や外国について興味関心を抱くようになったと約70%の保護者が回答している。

アンケート調査を実施したことで、保護者の幼稚園の英語についての考えが明らかになった。その一方、英語の指導に対する要望などもたくさんでてきた。主なものを挙げると、英語の指導時間を長くしてとか回数をもっと増やして欲しいといったものや、実際に英語の指導しているところを見ていないので参観保育をして欲しいとか、指導内容がわかるように英語のカリキュラムを見せて欲しいとかいったものである。

今回、保護者からの要望もあり、幼稚園での英語のカリキュラムを初めて作成した。カリキュラムは指導を計画的に運ぶには必要不可欠なものであり、その後の判断材料にもなるので、以前から準備しようかなと考えてはいた。しかしながら、実際の指導時間は短いし、園の行事等により指導内容を変更することも度々あったので、それまでの経験から、あえて指導案を作るまでもないと考え、今まで積極的に準備しようとはしなかった。

ただし、カリキュラムを準備したという理由で、それに準じた指導を必ずしもするというわけではない。カリキュラムはあくまでも指導プランであるからである。プランであれば、当然のことながら、その内容は子どもたちの興味・関心度の度合いや取り組み方によって、ちょっとした変更や修正は多いにありうる。カリキュラムが幼児が英語を楽しむにあたって重要なのは、どん

な環境（クラスのスペースや人数，教材，指導方法等）を準備して，どんな指導をしたときに，子どもたちは目をキラキラさせ，楽しそうにしているのか，またその逆に，つまらなそうにしているかを理解することである。

カリキュラムを組むうえで第一の狙いとしたのは，子どもたちが十分に楽しめる英語，いいかえれば嫌悪感や抵抗感を感じさせないことであった。そのため，今までの経験から，全身反応教授的活動（TPR）と歌を中心にして組んだ。身体を動かしながら，歌ったり，踊ったり，遊んだりの雰囲気の中で英語を楽しんでもらえば，少なくとも英語嫌いにはならないだろうと考えからである。他に，幼稚園の行事や保育活動の連携を考えて組んだ。幼稚園の教育のねらいは，幼児がさまざまな体験を積み重ねる中で，相互に関連性を持たせながら達成に向かうもので，その内容は幼児が環境に関わりながら遊びの活動を通して相互的に指導されるものだからである。

今後は，概ねこのカリキュラムに沿って指導を実施していくことになるが，内容的には少し盛りだくさんのような感じがしないでもない。初めてのことであるし，修正や改善する事項が指導を続ける中で数多く出てくると考えられる。しかし，子どもが多いに楽しめる指導のためにカリキュラムの内容修正・変更等を繰り返しながら，より子どもたちに適した指導が計画的にできるようになるのではないかと期待している。

#### 参考文献

全国一在留外国人統計（法務省）<http://www.moj.go.jp/PRESS/090710-1/090710-1.html>  
(2009.12.10)

統計つくば2008 市民生活部市民窓口課

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/13/885/2106/index.html> (2009.12.10)

幼稚園教育要領解説 平成20年10月 文部科学省

幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開 平成3年9月 文部省

中山千章（2009）附属幼稚園の英語指導における保護者の意識調査と考察 つくば国際短期大学  
紀要37輯

小学校学習指導要領解説 外国語活動編 平成20年 文部科学省

TOEFL Test and Score Data Summary for Toefl Internet Based Test Sep. 2005–Dec. 2006

Test Data <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/TOEFL-SUM-0506-iBT.pdf>

(2009.12.10)

白井恭弘（2009）外国語学習の科学 岩波新書

市川力（2004）英語を子どもに教えるな 中公新書ラクレ

井上一馬（2002）英語のできる子どもを育てる方法 PHP 新書

鳥飼久美子（2006）危うし！小学校英語 文春新書

付録

英語で遊ぼう 年長クラス カリキュラム

平成21年度 つくば国際短期大学附属幼稚園

幼稚園における英語		幼稚園教育要領にしたがい、幼児の持つ潜在的な可能性を具現化するために、環境と遊びを通して英語教育を実践する。教師の仕事は、幼児が主体的にいろいろな事柄に興味や関心を持って環境に取り組み、環境へのふさわしいかわり方を身につけられるような環境づくりにあるわけであるから、遊びを主体としての英語を大いに楽しんでもらい、英語の時間がくるのを心待ちにし、英語に対し興味関心が多いにわくようにする。	
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通して英語を楽しむ。</li> <li>・日本語以外の言葉があるという意識を身につけるようにする。</li> <li>・英語で表現する楽しさ・面白さを味わう。</li> </ul>	
月 month	内容 Contents	チャンツ、歌及び活動 Chants, Songs & Activities	単語・語句 vocabularies・phrase s
4月 April	英語の指導なし No Classes		
5月 May	挨拶 身体の部位 子どもの日の単語 Children's Day	歌 Head, Shoulder, Knees and Toes 挨拶 Hello. Good morning. How are you? I'm fine. Thank you. And you? 絵本	vocabularies・phrases head, hair, eye, mouth, nose, ear, face, teeth, tongue, forehead, lip, eyebrow, eyelash, neck, tummy, tummy-button, back, bottom, hand, finger, sum, pinky, nail, arm, elbow, knee, toe, etc carp streamers rice cake wrapped in oak leaves
6月 June	動物 野菜・果物	歌 Ten Little Indian Boys Old Macdonald Had a Firm 動物・果物カード What is this/that? It's an apple. 絵本	dog, horse, pig, lion, tiger, bear, rabbit, squirrel, penguin, mouse, horse, cow, zebra, giraffe, hedgehog, goat, sheep, elephant, alligator, frog, turtle, snake, bat, whale, etc watermelon, pear, apple, orange, pineapple, cherry, melon, banana, chestnut, lemon, persimmon, onion, green-onion, ginger, cabbage, carrot, garlic, etc
7月 July	動物 虫	歌 Twinkle Twinkle Little Star Old Macdonald Had a Firm 動物(虫)・果物カード 数字カード 絵本	Number 1-30 one, two, three ... thirty beetle, stag beetle, grasshopper, mantis, ladybug, bee, ant, mosquito, spider, dragonfly, butterfly, cicada, caterpillar, wooly worm, Roly-poly bug, etc
8月 August	夏休み Summer vacation		

9月 September	曜日を覚える  気分を表す表現	歌 Seven Days in a Week  What day do you like? I like Sunday. Why? Because...  How are you feeling? I'm great.  絵本	Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday  fine, happy, great, good, hungry, sleepy, tired, angry, so-so, busy, hot, cold, bored, scared, etc.
10月 October	月日の言い方  ハローウィン	When is your birthday? My birthday is April the first.  チャンツA Year in Japan  歌 Happy Halloween!	January February March May June July August September October November December bat, ghost, spider, monster, vampire, Jack-o-lantern, mummy, witch, etc. candy, chocolate, cookie, sweets, etc.
11月 November	秋の遠足  曜日・月日・季節	歌 This is the way We wish you a merry Christmas  絵本	toothbrush, comb, toothpaste, soap, hair, wash, put on, clothes, shoes, etc  spring, summer, fall, winter fallen leaves sweet potato acorn baked potato
12月 December	クリスマス	歌 Jingle bells  絵本	snowman, North Pole, reindeer, sleigh, presents, Christmas tree, decorations, chimney, roof, candle, turkey, Christmas dinner, fruit pie, etc.
1月 January	自己紹介  自分の好きなこと や嫌いなことにつ いて話す	I am Draemon. I like Dorayaki very much, because it is so sweet and tasty. or, I don't like mice, because it bit my ear.	A Happy New Year! new year's money, new year's greeting card, rice cake, shrine, pray, happiness, good health, shopping, department store, lucky bug, etc
2月 February	自己紹介	自己紹介 歌 Hokey, pokey	right, left, in, out, turn around, shake,
3月 March	ひな祭り  卒業式	歌 What a Wonderful World	Dolls Festival girls'day, health, happiness, ceremony, festival, etc green, yellow, white, red, blue, tree, dark, rose, sky, cloud, rainbow, bright, night, wonderful, world, etc